



# AMUSE

第2号 2018.3.31

**旭川医科大学外科学講座教育支援機構**

## AMUSEのさらなる前進 ：平成29年度を振り返って

旭川医科大学外科学講座教育支援機構 代表理事  
旭川医科大学外科学講座 消化器病態外科学分野

### 古川 博之



会員のみなさまには、日頃からAMUSEの活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。平成29年度の主なイベントや活動について、ご報告したいと思います。

まずは、平成29年8月1日付けで、松野直徒先生が移植医工学治療開発講座の特任教授に就任、9月14日付けで、宮本和俊先生が小児外科の病院教授に就任されました。両教授のこれまでの貢献が高く評価されたものとAMUSEからもお祝いを申し上げます。両教授の祝賀会がそれぞれ開催され、多くの方々にお祝いにかけていただき、ありがとうございました。

平成29年9月16日、17日、さっぽろ芸文館にて第1回北海道外科関連学会機構合同学術会議(HOPES2017)が開催されました。HOPESの設立については、北海道の外科系地方会の低迷を挽回すべく、東理事、紙谷理事のアイデアの元、北海道外科系学会が一丸となり、若手外科医や学生を巻き込んだセミナー開催や業績表彰を行うプロジェクトとして設立した経緯があります。まさしく、その成果は、著名講師による講演などすばらしい企画と、それに対して多くの参加者があったことで実証されているものと思います。

AMUSEが協力して取り組んでいる企画として、Surgical Grand Roundsがあげられますが、平成29年度は、計8回が行われました。その講演内容も様々で、外科に限らず話題が取り上げられ、毎回多職種の方々にお集まりいただきました。特に、若林隆秀先生によるサルコペニアの講演には、栄養やリハビリテーション関係者を含むたくさんの方で会場が埋め尽くしました(写真1)。印

象に残った講演として小杉郁子先生の話があげられます(写真2)。ご本人が国境なき医師団としてレバノンなどの海外に派遣された経験をお話いただきましたが、地雷・爆弾・銃弾などで被害にあった方々を救命している現場の写真に旋律を覚えました。凄まじい環境での仕事のためか、日本に帰ってきても半年ぐらいは放心状態というお話でした。それでもやはり地元の人たちに喜ばれるので続けることができたとお話にパワーをもらいました。海外からの講演として、アメリカピッツバーグ大学麻酔科教授の酒井哲郎先生には日本とアメリカの医学教育システムの違いについて(写真3)、ウイスコンシン大学のDavid Al-Adra先生にはカナダの移植医についての教育システムについての話しをいただきました(写真4)。これらの講演をきっかけとして、ぜひAMUSEの若手医師には彼らの元を訪れていただきたいものと思います。

学生たちに外科への興味をもってもらうために全国学会に連れて行く企画も行っています。日本外科学会や日本血管外科学会に学生を連れていき、全国学会の緊張感を味わってもらうと同時に、親睦を深める企画です。また、大学内では平成29年度で計8回のハンズオンセミナーなどを中

### AMUSE 第9回 Surgical Grand Round

#### 「サルコペニアの周術期管理と リハビリテーション栄養」



演者:若林 秀隆 先生  
(横浜市立大学附属市民総合医療センター  
リハビリテーション科 診療講師)

サルコペニアとフレイルの第一人者で  
全国講演、著書多数と活躍されて  
いる若林先生による貴重な御講演です。  
今回は他職種にまたがる今話題のテーマ  
ですので奮ってご参加いただけますよう  
宜しくお願いいたします!



若林先生著書

日時: 2017年5月10日(水) 18:30~  
場所: 臨床第三講義室  
対象: 全職員

お問い合わせ: 外科学講座 血管外科  
内田大貴(内線2494 PHS8107)



(写真1) 横浜市立総合医療センター  
若林隆秀講師



(写真2) 福井県済生会病院 小杉郁子先生

心とした外科手技を実践する企画が行われました。例年夏に行われてきたバーベキュー・パーティーの前には各研修病院が自分たちの病院の研修システムをアピールする、レジナビフェアも開始になっており、多くの研修病院と学生さんに参加いただきました。

このようにAMUSEは着実に前進し、学生や研修医へのアピールを欠かすことなく取り組んでおり、入会者（新入医局員）もコンスタントとなってきていますが、地域の外科医療に貢献するというAMUSE設立の理念を忘れないように進んで参ります。特に平成30年度は、将来の公益法人化を視野に、高校生など若手に対する移植など先端医療についての教育を始めとして、ダイバーシティー対策としての女性医師のエンパワーメントを含めた教育をワークライフバランスの視点を忘れずに進めてきたいと考えています。

最後に、平成29年9月の日本移植学会開催に際しまして、AMUSEからのご寄付を始めとして多くの応援ありがとうございました。成功裏に無事終了することができました。



(写真3) ピッツバーグ大学麻酔科 酒井哲郎教授



(写真4) SGRポスター

## AMUSEのさらなる 飛躍を目指して

旭川医科大学外科学講座  
血管・呼吸・腫瘍病態外科学分野

東 信 良

AMUSEが発足して、若いエネルギーが外科教室に満ちてきており、また、学会出張規定なども確立して、具体的な若手支援が可能な体制になってきました。指導陣についても、松野特任教授の誕生や、呼吸器乳腺担当の北田病院教授や小児外科担当の宮本病院教授が誕生し、さらに、この春に新たに消化管の教授をお迎えすることになれば、外科専門医全ての分野に教授ができる盤石の指導体制ができるだけでなく、多彩な指導陣による高いレベルの臨床・教育・研究が提供され、AMUSEにとって画期的な1年となります。

また、昨年の創刊号でもご紹介させていただきましたHOPESは昨年9月に第1回の合同学術集会を開催し、日本外科学会からは森正樹理事長代理(現理事長)と北川雄光理事にも来ていただき、4つのランチオンと2つのハンズオンで大いに盛り上がり、300名の参加者がございました。旭川からの参加者は最大勢力で、特に学生10数人がいる会場は賑わい感満載で、彼らが動くインパクトがありました。HOPESも、若手外科医の成長のために非常に重要な取り組みであり、順風満帆と言いたいところですが、しかし、その時から言われていたことは「最初にドカンと花火をぶち上げるのはあまり難しくない、いかにその盛り上がりを持続するかが難しいんだ」と。

確かに、今年が踏ん張りどころかも知れません。企業の学会への出資控えはどんどん進んでおり、HOPESの知名度もまだ低いようで、こちらが思っているようにランチオンさえ組むのが難しくなっていて、3大学の結束が試される会になりそうです。そうした資金面を潤沢にしてゆく上でも第2回がいかに活気にあふれる地方会にできるかが大いに問われるところです。是非、皆様のご尽力で、やる気のある学生を見つけて今年も学生セッションを盛り上げ、多くの学生にHOPESに参加いただき、若い外科医が張り切って発表している姿を見せて頂いて、HOPESでもAMUSEの存在

感を北海道の外科医の皆様を示して頂きたいと強く願います。

さて、最後にAMUSEのさらなる飛躍に向けて取り組むべき課題について、書かせていただきます。上記の動きにまだ追従していないのが、研究面でのAMUSE効果醸成ではないかと思えます。せっかく、これだけの人間が一緒に行動しているのに、研究面での協調が進んでいないように思えます。

手術に多くの時間をとられる外科医に、教育も研究もと全てを求めるのはなかなか難しいかも知れませんが、ちゃんとカルテや手術記録も書いて、患者家族とのコミュニケーションもちゃんとできて、確定申告もできて(以前、何度か確定申告できない外科医を呼び出す税務署からの電話を受けたことがあります)、専門医の取得や維持がちゃんとできて(専門医を流してしまうとんでもない輩がいっぱいいます)、論文も書ける、そんな外科医を育てるためには、若い時の指導・習慣づけが肝心だと思います。

研究もしかりで、適切な時期に研究に打ち込む時間を作ってあげることが大事で、そのためには、AMUSE内のどこにどんな研究をしている人材がいるのか、AMUSEの大きな財産に関する情報を発信すべき時がきているように思えます。

外科医は体にメスを入れる職種。したがって、





独善的であってはならず、常に自分の行っている診療を科学的に解析する力がないといけません。バイアスをできるだけ取り除いて、他の治療法と比較したり、他者と比較したりして、ある術式の問題点を明らかにする能力を養うのは、勿論臨床研究でも可能ですが、基礎研究経験もかなり重要なはずで。

私は、教授でありながら大学院は出ておりません。学生時代、臨床実習の自由選択というのがある、私は病理を選択しました。そこにはバレー部の先輩である平田先生（現病院長）が居て、大学院生として研究に打ち込んでおり、熱く免疫細胞研究の面白さを語ってくれました。それがいつまでも心に残っていたのでしょ。外科に入局してから、何度も病理学教室での研究を志願しましたが、先代教授（当時の医局長）から「絶対駄目だ」と言われました。どうしてダメなのか尋ねると「お前は、病理に行ったらもう帰ってこない」と言われて、そう言われてみればそうかもしれないとなぜか腑に落ちたのです。その後、私に与えられた外科での研究テーマは「動脈同種移植」で当時まだ商品名が無かったタクロリムスを使った移植をラットでやらせていただき、夜な夜なラットの頸動脈を顕微鏡下で縫うことを何年もやっていました。免疫に携わることができた幸せな時間でした。その後米国に留学させていただき、培養細胞を血流に暴露して、プロットする毎日を過ごし、完全に基礎研究に集中できた、これまた幸せな2年間でした。しかし、結局、臨床に戻って、今は臨床研究を行っています。

本当の自分は何に向いているのか、なかなか自分では分からないものです。上記の研究歴の間にいくつも驚くべき事象に出会い論文にしましたが、本当に凄い研究成果を出していれば、今頃研究生活を送っていてもおかしくないけれど、き

っと自分は血管外科の臨床医として血管手術に向き合うのが一番性に合っていたのかも知れません。是非、若い皆様には、自分が知らない本当の自分の才能を見つけて頂きたいと思います。本当の才能を伸ばすためにも、どこにどのような人材がいるのかAMUSEあるいはそこから派生する人材ネットワークを是非活用して、基礎研究、臨床研究、臨床手技、機器開発、病院経営、ICT応用、医学教育、医療者啓発、地域貢献など、どの分野に才を見出し、伸ばしていきたいのかを探っていたきたい、そういった環境が実はAMUSEが最も提供すべき場なのではないかと思う次第です。

夏は野外でバーベキュー、でも旭川の冬はじっくり温かい温泉でもつかりながら、研究の話をし泊過ごすというのも良いではないかと思うわけ。そうした際には「私の留学体験」「私の大学院生活」などを紹介していただくのも良いかも知れません。

AMUSE諸君へ、是非、AMUSEを存分に利用して世界に通用する外科医を目指してください!!

## 平昌オリンピックの感想

旭川医科大学外科学講座  
心臓大血管外科学分野

紙谷寛之

2018年2月に平昌オリンピックが行われ、連日熱戦が繰り広げられた。期間中、デスクワークは一切手につかず、時間を見つけてはオリンピック中継を見ていた。私は大学時代競技スキー部でクロスカントリースキーを行っていたこともあり、雪上スポーツはするのを見るのも大好きである。しばし、学生時代の気分に戻り、興奮した。最近の冬季オリンピック、すなわちトリノ、バンクーバー、ソチの三大会はドイツでテレビ観戦したのであるが、日本選手は葛西選手を除いてはテレビではほとんど放送されなかった。今回は連日日本人選手を応援することができ、自分の日本人としてのアイデンティティーを再確認することとなった。

今大会では日本選手団は金メダル4つ、銀メダル5つ、銅メダル4つと過去最高の成績を上げることができた。金メダルを取った選手たちにも感

動したが、私は銀メダルのスノーボードの平野歩夢選手と銅メダルの高梨沙羅選手に心を揺さぶられた。

平野選手は直前の大きな国際大会であるX-Gamesで優勝しており、最有力の優勝候補として臨んだオリンピックであった。2回目の試技で最高のパフォーマンスを見せたが、ライバルのホワイト選手が3回目の試技でこれまた最高の演技を見せ、結果的には僅差でホワイト選手の優勝となった。ビデオ再生で見るとホワイト選手はジャンプの中の1回でクラブをしきれておらず、平野選手の優勝となっても全くおかしくなかったようにも思われたが、平野選手は弁明を一切せず、ただただホワイト選手を称えたのであった。19歳にして、これほどのGood loserになれるそのスポーツマン精神に心の底から感動した。

高梨選手は今までにワールドカップで通算53回の優勝を誇っている史上最高の女子ジャンパーであるが、今シーズンはノルウェーのルンビ選手、ドイツのアルトハウス選手が非常に好調で、ここまでその両選手に一度も勝てていなかった。オリンピック本番で力を出し尽くしたが、その両選手には及ばず銅メダルとなった。その悔しさは察するに余りあるが、競技終了後、そしてメダル授与式では非常に喜んでいて、私が思うに、本当は悔しくて悔しくて仕方がなかったのではないかと。しかし、あの場面で、悔しがめる姿は観客・ファンみんなは望んでいない。周囲の期待をおもんばかり、悔しくても喜ぶことができる、その精神力の強さに本当に感銘を受けた。

オリンピックと比べるのはおこがましいにも程があるが、私のクロスカントリースキーも負け続きであった。東医体では個人種目として15kmと8kmがあったが、3年生、4年生、5年生とその2種目でいずれも銀メダルであった。同じ選手に負け続けるのならば納得も行くのであろうが、私の

場合は3年生の時は北大スキー部の同輩に、4年生の時は旭川医大の先輩に、5年生の時はまたまた北大スキー部の同輩に負けたのであった。私は平野選手や高梨選手のようなGood loserであったであろうか。正直あまり自信がない。

しかし、金メダルをもらえるのは1人だけで、あとは全員敗者である。また、金メダリストも、競技人生を長く続ければ必ずや後輩に追い越される運命にある。競技生活の絶頂期に引退するにしても、今後は引退後の新たなチャレンジが始まり、そこでも勝ち続けることができる保証はない。すなわち、競技者人生においては敗者の側に回ることが圧倒的に多い。

外科医人生もやはり、決定的な敗北とまでは言わないまでも、思うようにいかないことが多く、達成感よりは敗北感の方が多いのではないかと。多くの外科医はうまくいかなかった手術はずっと頭にこびりついて離れず、生涯忘れることができない。大多数のうまくいった症例の事は記録上には残るが、記憶の中にはあまり残らない。結果的には敗北感がほとんどとなる。外科医としてだけではなく、そもそも人生そのものがそういうものかもしれない。なかなか、自分が思うようにはならないものである。

そのような困難な状況にあっても、尊厳を持ってふるまうこと、前向きに頑張ること、これこそが人間の価値であるように思う。平野選手、高梨選手に代表される、数多くのGood loserたちからは本当に勇気ももらった。平野選手、高梨選手が北京オリンピックで金メダルを獲得できることを心より祈っている。自分も彼ら彼女らを見習い、自分がいつの日か自分が理想とする存在になりたいと強く願い努力し続けよう、そしてそんな自分の背中を医局員に見せ続けよう、そう思った2週間であった。



## 年を重ねて思うこと

呼吸器センター 副センター長  
 乳腺疾患センター センター長  
 旭川医科大学外科学講座 教授 (病院)

### 北 田 正 博



こんにちは、一昨年のAMUSE主催忘年会では、病院教授就任をお祝い頂きました。ありがとうございます。本紙面で大変恐縮ですが、吉田学長、平田病院長はじめ、古川教授、東教授、紙谷教授

その他、多くのAMUSE関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

さて、最近、年を重ねて、若い時代にはなかった心境を自覚することがあります。例えば、通勤時に大学玄関前で夜明け前の月を見ると、時代も場所も異なれ同じ月を見ているんだと寒さを顧みず見惚れたり、桜を見れば、命尽きるまでにあと何回この景色が見れるのだろうかという、よくあるフレーズが素直に出てきたり、小説などで琴線にふれる文節を読むと、つい感極まったりなどなどです。昔、親に言われたことが理解できるようになってきたこともその一つです。

年を重ねると普通のことなのかもしれませんが、自分なりに考察しますと、1. 子供と同世代の若い先生との勤務が増えた?、2. 自分より年下の患者が増えた?、3. 死期が近い?、も挙げられましょうか。

若い先生たちと仕事：現在4名の20代～30代前半の医師がおり、2名は大学院医師、1名は来年入学します。診療時、手術時の困った様子の時、突っ込みどころは多々ありますが、全うに成長している姿は、心が和みます。母性本能、いや父性本能が芽生えたのかもしれません。

診療の半数は年下の方：乳腺疾患では、30～40代の進行再発症例を診療することが少なくありません。昔は年上の患者様がほとんどでしたが、現在は半数が同年代以下です。今際の極みの際、子供（特に学童期の子供）を残して死に向かう患者の無念さ、母親の死を受け入れられない子供の悲

しみ、娘が自分より早く死なれる親の嘆きなど、強い衝撃を受けることがあり、死を深く考えるようになったことも一因かもしれません。

思い起こしますと、仕事を覚えることと飲み会が中心だった? 研修医時代、気管移植の学位研究で、犬の気管をひたすら縫合していた時代、肺がん食道がん手術後の感染が多発し、ひたすらBFで痰を吸引していた時代、一人赴任した専門施設でひたすら呼吸器の手術していた時代、うーん、深く考えなかったわけではないのですが、心の余裕は無かったのかもしれません。

ただ、本当に忙しかったのか、余裕が無かったのか。年を重ねて思うことがもう一つあるんです。それは、若い時にもっと手術手技を修練できたかも、もっと論文を書けたかも、……後悔の念なんです。完璧な人生なんて無く、皆が勤勉の必要もなく、才能や考え方の差はありますが、若い先生に資格取得や研究で悔いを残さないよう発破をかけるのは、年を重ねた年配者の役目と考え、これからも、うるさいな～と嫌われつつ仕事をしていきたいと思います。

本年もAMUSE関係者皆様とご家族の御健康と御多幸を祈念いたします。今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。



## ごあいさつ

旭川医科大学 移植工医学治療開発講座 特任教授 (消化器病態外科分野 兼務)  
 卒後臨床研修センター副センター長 (外科系統括)

### 松野直徒



わたくしが所属した岡山大学外科、東京医科大学外科は、形は多少異なるものの外科は前者は一つになり、後者は長い歴史の中で変わらず一つでした。今後は、旭川医大外科の流儀を伝える全外科領域のそろうた、研修医指定病院を確保することが大事だと思います。

札幌の高校を出て長く北海道を離れた私の外科医としての精神的なバックボーンは、国内、国外に肝移植の勉強にでかけ、多くの先輩、仲間と知り合い、そして、母校で52例の大人の生体肝移植を行い、最後に自分で閉じたという経験から来ています。古川先生のピッツバーグ時代にはとても及びませんが、逆に、人的ソースの限られる中、忙しい年は、月2度の成人生体肝移植、繰り返す肝生検や再手術、定時の肝切除に月2度の腎臓移植、夜は、腹膜炎の緊急手術が続きました。肝移植は、血液型不適合や、透析患者、直前に肝がん破裂や、大腸がん合併さらに術中CHDFと、厳しい症例ばかりでした。成功率は60~70%。7年間で約150例ほどの紹介がありました。勉強させられたことのひとつにインフォームドコンセントがあります。肝移植の場合、ご本人も自らの死を意識していることも多く、お断りした場合、その方は亡くなるわけで特に、ほかの大学で断られた場合、最後の砦としてのインフォームドコンセントは、その人の人生観に寄り添わねばならず様々な意味で勉

強になりました。手術室とICUでの生活のほうがかかった7年間でした。これがわたくしの精神的な屋台骨です。

本講座の特任教授としては、医工連携ものづくり分野で、アカデミックサーજャンを(せめて大学にいるときには)作るのだと思います。首都大東京機械工学、北見工大、旭川工業高専と工学系に加え、国立成育医療研究センター、東京薬大、帯広畜産大と多くの大学と共同研究を進めており、企業も、中央精工、石原産業、泉工医科など加わり、産学連携では旭川医大の中でももっとも大きなプロジェクトのひとつです。そして、わたくしの率いる臓器還流保存、機能再生プロジェクトはすでに学会内のプロジェクトであり、北海道道庁、経産局の支援、さらに言えばAMEDの革新的医療技術創出の拠点プロジェクトとなっています。多くの若い外科医の力を必要とします。

最後に、わたくしの考えるAMUSEプロジェクトに腎臓移植あるいは隣腎同時移植があります。東京医大に限らず、東北大学、広島大学、九州大学など外科で腎臓移植を行っているところは珍しくはありません。患者の背景をよく知る心臓外科、血管外科。拒絶反応、免疫抑制剤を熟知している古川教授が合体するプロジェクトです。広域な道北地方に、現在、一つしか腎移植施設はありません。需要度も、病院経営的にも、利点の多い腎臓移植を共同プロジェクトとして進めたいと思っています。泌尿器科、柿崎教授も市立旭川病院も応援に回ってくれています。

わたくしは、皆様のご理解とご協力を得て、私自身努力を重ねつつ、旭川医科大学外科に恥じない業績を積み重ねて言いたいと思います。次世代のためにも志を高くし、歩んでいく所存ですので、どうかよろしく願いいたします。



臓器灌流保存装置  
 国産でわが国初の  
 実用化をめざす

## 教授就任のご挨拶

旭川医科大学外科学講座 小児外科  
科長・教授（病院）

### 宮本 和 俊



平成29年9月14日付で教授（病院）の称号を授与されました。

私は札幌南高校を卒業、昭和58年に旭川医科大学を5期生として卒業いたしました。

在学中は弓道部・医療研究会

に属し、卒後は医療研究会とカヌー部の顧問を担当しています。学生時代から、医療研究会顧問であられた第1外科鮫島夏樹教授にご薫陶をいただき、卒後は第1外科に入局し小児外科を志しました。昭和63年から2年間順天堂大学小児外科助手として国内留学し、駿河敬次郎教授そして宮野武教授にご指導いただきました。その後は第1外科に戻り平成3年に助手、平成16年に講師を拝命しております。この間、第1外科久保良彦教授、笹嶋唯博教授、東信良教授にご指導いただいております。

本学小児外科はその創設期から第2外科との手術・学術面での交流が深く、斉藤孝成助教授、柿坂明俊准教授、河野透准教授、紀野修一准教授をはじめ諸先生にお世話になってきました。また専門医制度ができてからは、多くの第2外科の若い先生達に小児外科をローテーションしていただきました。そのようなことからAMUSEの設立を心から喜んでいます。

小児外科ではこれまで北海道北部・東部にある唯一の小児外科認定施設として4700例を超える子ども達の手術を安全に行ってきました。このような臨床面が評価され、今回平田病院長のご推薦のもと、大学運営会議および教育研究評議会の議を経て、吉田学長から称号を授与されることとなったと聞き及んでいます。自分としては退職間近の授与であり内心忸怩たるものがありますが、AMUSEの若手・中堅医師に、このようなこともあるのだと知っていただけることにも意義があるので感じています。

この4月から、小児外科は宮本（5期生、教授（病院））平澤（14期生、学内講師）宮城（25期生、助教）石井（34期生、大学院）の4人体制となり、さらに充実いたします。浅学の身ではございますが、新体制のもと診療・教育・研究に一層精励いたす所存でございますので、何卒よろしくご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



## 2017年度 AMUSE運営体制

事務局 旭川医科大学 〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号  
 電話 0166-66-2424 FAX 0166-66-2425  
 メールアドレス asahikawa.amuse1@gmail.com

代表理事 古川博之  
 理事 東信良  
 理事 紙谷寛之  
 理事 北田正博  
 理事 矢吹英彦 (遠軽厚生病院 院長)  
 理事 内田恒 (札幌厚生病院 心臓血管外科 主任部長)  
 監事 新居利英 (深川市立病院 副院長)

幹事 長谷川公治・今井浩二・内田大貴・浅井慶子・庄中達也・菊地信介  
 秘書 米谷さとえ

### AMUSE法人会員

#### 法人会員施設 36施設

JA北海道厚生連 まるせつ厚生病院/JA北海道厚生連 旭川厚生病院/JA北海道厚生連 遠軽厚生病院  
 JA北海道厚生連 札幌厚生病院/JA北海道厚生連 美深厚生病院/医療法人 中島病院/医療法人 唐沢病院  
 医療法人ひまわり会 札幌病院/医療法人回生会 大西病院/医療法人健康会 くにもと病院  
 医療法人社団 ふらの西病院/医療法人社団幾晃会 木原循環器科内科医院/医療法人社団元生会 森山病院  
 医療法人社団康幸会 かわぐち心臓呼吸器病院/医療法人社団慈成会 東旭川病院  
 医療法人社団進和会 旭川リハビリテーション病院/医療法人仁友会 北彩都病院  
 医療法人徳洲会 札幌徳洲会病院/医療法人徳洲会 帯広徳洲会病院  
 公益財団法人北海道対がん協会 旭川がん検診センター/公立芽室病院/国民健康保険町立和寒病院  
 国立病院機構 旭川医療センター/国立病院機構 帯広病院/社会医療法人 製鉄記念室蘭病院  
 社会医療法人孝仁会/社会福祉法人北海道社会事業協会富良野病院/小林病院/上富良野町立病院/深川市立病院  
 天塩町立国民健康保険病院/八雲総合病院/比布町立びっぶクリニック/美瑛町立病院/名寄市立総合病院  
 留萌市立病院

#### 賛助会員施設 3施設

医療法人社団真佑会 旭川消化器肛門クリニック/医療法人 治恵会 北見中央病院/医療法人徳洲会札幌東徳洲会病院

#### 合計 39施設

### AMUSE個人会員

名誉会員 3名  
 正会員 117名 (2017年度新入会会員 6名)  
 賛助会員 2名  
 合計 122名

(2018年2月現在)

## AMUSE事業報告

AMUSE (Asahikawa Medical University Surgical Educational Support Organization) は北海道、特に道東・道北を中心とした地域の外科医療の安定と発展のために設立された組織です。

具体的な活動として

- ・学生・研修医のリクルーティング活動
- ・若手外科医の活躍の場（論文・学会発表など）への援助
- ・外部講師を招いての高度・先進医療の習得
- ・関連病院との交流を図るイベントの開催

を行っています。2017年現在実施中のAMUSE事業を報告します。

### ①Wet-Lab. ハンズオンセミナー

学生に主にブタなどを用い、縫合・腹腔鏡手技・心血管縫合などの手技を体験してもらいます。学生に手術手技を体験してもらうことで外科へ興味をもってもらいます。この中から明日のAMUSE会員が出てくるかも？2017年度は8回行いました。

### ②SGR (Surgical Ground Rounds)

国内はもとより海外からも著明な講師を招聘し、地方では学ぶ機会の少ない、高度外科医療、先端外科医療を紹介していただきます。2017年度は8回行いました。今後も重点事業として継続する方針です。

### ③学会への参加（日本外科学会・日本心臓血管外科学会・HOPESなど）

主にAMUSE入会を決断した、または迷っている5～6年生を対象に、教室員の活躍を肌で感じてもらい、また、未来の自分をイメージする機会として全国学会へ同行してもらっています。また、2017年9月16～17日には、北海道の外科医療を活性化すべくHOPES (Hokkaido Organization of Professional and Educational Surgical Societies) が開催されました。研修医はもとより学生セッションも設けられており、多くのAMUSE入会を考えている学生が学会発表を経験しました。

### ④合同医局説明会・レジナビフェア

AMUSE入会を検討中の6年生を対象に、

AMUSEの外科の研修生活や、魅力を説明しました。また、今年は「レジナビフェア」と称し、5～6年生を対象に、AMUSE法人会員から各病院の初期研修や魅力を伝えていただく機会を設けました。

### ⑤アドバンス実習説明会

医学部5年生を対象に、アドバンス実習（医学部6年生の選択病棟実習、多くは1ヶ月研修する）でAMUSE各科を選択してもらえるよう、各科の実習の魅力を伝えています。アドバンス実習は1ヶ月の濃密な実習で人間関係が形成されることも多く実習中にAMUSE入会を決める学生もいるため、大学教官が最も（？）気合いの入る時期です。

### ⑥バーベキュー大会

学内会員とその家族、医学生、研修医との親睦・福利厚生を目的に年に一度継続して行っています。今年度はレジナビフェアとも重なり、関連病院の先生にも参加していただきました。

この他にも、学園祭の医学展展示への協力、また、若手医師を中心とした有志は、適宜学生との懇親会などを行い、学生・研修医の個人の応じた勧誘でAMUSE入会への努力を行っています。このような活動はAMUSEのFacebook (<http://ja-jp.facebook.com/asahikawa.amuse/>) で適宜更新しておりますので、是非とも御覧ください。

## 2017年度 AMUSE事業一覧

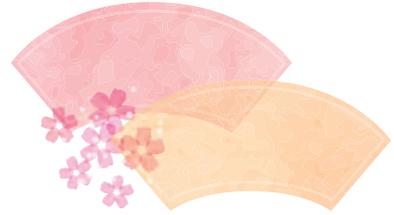
AMUSE事業計画に法り、下記の事業を遂行できましたのでここでご報告させていただきます。

日付	事業内容	開催地	備考
4月9日	第2回AMUSE総会・新人歓迎会	旭川グランドホテル	
4月14日	Wet-Lab (心臓)	旭川医大 小講堂	
4月20日	ハンズオンセミナー (消化器)	旭川医大 小講堂	皮膚縫合
5月10日	9回SGR (血管)	旭川医大 臨床第3講義室	若林秀隆先生講演 (横浜市立大学附属市民総合医療センター 診療講師)
5月18日	ハンズオンセミナー (消化器)	旭川医大 小講堂	腹腔鏡基本手技
6月12日	10回SGR (消化器)	旭川医大 臨床第3講義室	酒井哲郎先生講演 (アメリカ ピッツバーグ大学麻酔科教授)
6月15日	ハンズオンセミナー (消化器)	旭川医大 小講堂	腹腔鏡手術手技
6月19日	合同医局説明会	旭川医大 小講堂	
7月2日	レジナビフェア&BBQ大会	旭川医大 臨床第3講義室 ハーベストロードハウス	
7月13日	11回SGR (心臓)	旭川医大 臨床第3講義室	小杉郁子先生講演 (元国境なき医師団)
8月1日	移植医工学治療開発講座開設 および 松野直徒 特任教授就任		
8月25日	12回SGR (消化器)	旭川医大 臨床第3講義室	川崎誠治先生講演 (順天堂大学)
9月7～9日	第53回日本移植学会総会 開催支援	アート旭川ホテル 旭川トーヨーホテル	古川 博之 教授 学会長
9月14日	宮本 和俊 小児外科 病院教授就任		
9月16～17日	HOPES (Hokkaido Organization of Professional and Educational Surgical Societies) 2017開催支援	ホテル ライフォート札幌	第102回日本胸部外科学会 北海道地方会 紙谷 寛之 教授 学会長
9月19日	13回SGR (消化器)	旭川医大 臨床第3講義室	DAVID AL-ADRA講演 (アメリカ ウィスコンシン大学)
10月21日	松野直徒 教授就任祝賀会	アートホテル 旭川	
10月29日	ハンズオンセミナー (消化器)	旭川医大 小講堂	腸管吻合
11月8日	Wet-Lab (心臓)	旭川医大 小講堂	人工血管置換術を想定した 血管吻合
11月21日	14回SGR (呼吸器)		
12月13日	Wet-Lab (心臓)	旭川医大 小講堂	大動脈弁置換術
12月15日	15回SGR (小児)	旭川医大 臨床第一講義室	漆原直人先生講演 (静岡県立こども病院 外科系診療部長)
12月16日	AMUSE忘年会	アートホテル 旭川	
1月10日	Wet-Lab (心臓)	旭川医大 小講堂	
1月13日	宮本 和俊 教授就任 祝賀会	旭川グランドホテル	
1月29日	アドバンス実習説明会	旭川医大 小講堂	
1月31日	16回SGR (血管)	旭川医大 臨床第3講義室	松本健吾先生講演 (大分岡病院 形成外科創傷ケアセンター)
2月22日	ハンズオンセミナー (消化器)	旭川医大 小講堂	皮膚縫合

# AMUSE2017年を振り返って



4月9日 AMUSE歓迎会



4月13日 Wet-Lab.



4月28日 第117回日本外科学会 (横浜)



4月20日 ハンズオンセミナー



6月19日 合同医局説明会

7月2日 レジナビ & BBQ



7月13日 SGR (小杉郁子先生 講演)



9月16日 HOPES



10月21日 松野教授就任祝賀会



12月14日 SGR (漆原直人先生)

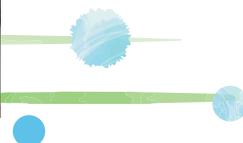


12月16日 AMUSE大忘年会





1月13日 宮本教授就任祝賀会



1月29日 アドバンス実習説明会



2月22日 ハンズオンセミナー

## 2016年度 収支決算報告

### 収入の部

事業費目	予算額①	決算額②	増減②-①	摘 要															
1. 会費	¥18,970,000	¥26,830,000	¥7,860,000	<table border="1" style="display: inline-table; vertical-align: top;"> <tr> <td>法人正会員</td> <td>35施設</td> <td>¥21,000,000</td> </tr> <tr> <td>法人賛助会員</td> <td>2施設</td> <td>¥200,000</td> </tr> <tr> <td>正会員（会費10,000/月）</td> <td>43名</td> <td>¥5,110,000</td> </tr> <tr> <td>々（会費10,000/年）</td> <td>51名</td> <td>¥510,000</td> </tr> <tr> <td>賛助会員</td> <td>2名</td> <td>¥10,000</td> </tr> </table>	法人正会員	35施設	¥21,000,000	法人賛助会員	2施設	¥200,000	正会員（会費10,000/月）	43名	¥5,110,000	々（会費10,000/年）	51名	¥510,000	賛助会員	2名	¥10,000
法人正会員	35施設	¥21,000,000																	
法人賛助会員	2施設	¥200,000																	
正会員（会費10,000/月）	43名	¥5,110,000																	
々（会費10,000/年）	51名	¥510,000																	
賛助会員	2名	¥10,000																	
2. 設立時資産繰入金	¥4,000,000	¥3,800,894	¥-199,106																
3. 寄付金	¥1,000	0	¥-1,000																
4. 雑収入	¥1,000	¥916,073	¥915,073	ご祝儀（総会360,000、忘年会556,000）、預金利子73															
5. 負担金	0	¥2,238,000	¥2,238,000	会費（総会930,000、BBQ大会85,000、忘年会1,223,000）															
合 計	¥22,972,000	¥33,784,967	¥10,812,967																

### 支出の部

事業費目	予算額①	決算額②	増減①-②	摘 要
1. 事業費	¥10,500,000	¥9,599,749	¥900,251	
若手外科医リクルート事業	¥3,000,000	¥5,290,215	¥-2,290,215	学生勧誘飲食代、合同医局説明会、アドバンス説明会、国試慰労会、入局者祝賀会、BBQ大会、心臓学会学生旅費支援
学会・研修関連費	¥1,000,000	¥268,930	¥731,070	研究会等の諸会費（日本小児内視鏡外科・手術手技研究会費、日本低侵襲心臓手術学会第二期施設会費、日本小児外科学会北海道地方会施設会費）指導者講習会参加費用助成
専門医育成支援	¥1,000,000	¥0	¥1,000,000	
広報事業費	¥2,000,000	¥1,008,600	¥991,400	ホームページ維持管理費、AMUSE会報誌発刊
学術交流活性化	¥1,000,000	¥297,822	¥702,178	SGR招待演者謝金・旅費交通費 研究討議会諸費用
学会発表支援	¥1,000,000	¥100,956	¥899,044	英文校正費用助成等
社員親睦関連費用	¥1,500,000	¥2,633,226	¥-1,133,226	忘年会、医局対抗野球大会参加
2. 補助費	¥3,000,000	¥4,989,906	¥-21,398	
主催学会開催準備	¥2,000,000	¥1,058,945	¥941,055	日本肝移植研究会寄付金、第36回日本血管外科学会北海道地方会補助
キャリア形成支援	¥1,000,000	¥0	¥1,000,000	
医局運営費	¥0	¥1,962,453	¥-1,962,453	医局用お茶、飲み物、菓子、食糧費、洗剤、その他消耗品
非常勤講師・医師謝金等	¥0	¥1,968,508	¥-1,968,508	大学非常勤講師・病院非常勤医師への報酬、交通費・宿泊費等
3. 会議費	¥2,000,000	¥945,270	¥1,054,730	
AMUSE会議費	¥1,500,000	¥0	¥1,500,000	
AMUSE総会費	¥500,000	¥945,270	¥-445,270	総会開催費用
4. 事務費	¥5,610,000	¥6,200,919	¥-590,919	
(1) 事務局費	¥5,110,000	¥3,981,117	¥1,128,883	
業務委託費	¥1,000,000	¥806,760	¥193,240	行政書士、税理士、AMUSE会費回収代行手数料
事務員給与他	¥1,350,000	¥1,195,307	¥154,693	事務員給料、交通費、雇用保険料
賃貸料	¥600,000	¥245,660	¥354,340	事務所賃貸料、プリンターリース料
印刷・消耗品費	¥300,000	¥297,893	¥2,107	事務局印刷代、事務消耗品
通信費	¥300,000	¥245,094	¥54,906	電話料、郵便料他
OA機材購入整備費	¥300,000	¥299,348	¥652	パソコン一式、ソフトウェア購入費等
光熱水費	¥60,000	¥0	¥60,000	
備品購入費	¥1,000,000	¥779,362	¥220,638	事務所備品一式（書庫、デスク等）
雑費	¥200,000	¥111,693	¥88,307	求人広告掲載料、振込手数料、ハイヤー協会手数料等
(2) 交際費	¥500,000	¥2,219,802	¥-1,719,802	開院祝、就任等の祝儀・祝花、各会協賛金等
5. 交際交通費	¥0	¥1,177,330	¥-1,177,330	学生勧誘接待・外部講師タクシー代
6. 租税公課	¥100,000	¥86,800	¥13,200	道市民法人税均等割、収入印紙
7. 予備費	¥1,762,000	¥24,406	¥1,737,594	WIND視察見学旅費ほか
合 計	¥22,972,000	¥23,024,380	¥-52,380	

次年度繰越

¥10,760,587

## 法人会員紹介

### 名寄市立総合病院

名寄市立総合病院

院長 和 泉 裕 一

名寄市は人口3万人弱の小都市で、道北の中心都市である旭川市から北へ約80kmの距離に位置しています。気候は、夏は暑く（8月平均気温25～26℃）、冬は寒い（2月平均気温マイナス16℃）のが特徴で、基本的には旭川と同じ盆地気候です。雪質日本一と言われるピヤシリスキー場や国内でシーズン開始一番に開催される公式ジャンプ台があり、2月には国際雪像彫刻コンテストが開催されます。

名寄市立総合病院は、北・北海道の中心的病院としてこの地域の医療を長きにわたり支えてきましたが、昨年創立80周年を迎えました。平成4年に全面改築したのを機に診療体制の充実・強化が図られましたが、平成11年には道北3次福祉医療圏地方センター病院（道内5病院）の指定を受けました。現在は、職員数750名、医師74名（研修医を含む）、診療科22科、病床数359床で、地域災害拠点病院、地域救命救急センター、地域周産期母子医療センター、へき地医療拠点病院、脳死下移植臓器提供病院、第二種感染症指定機関、その他各種学会の施設認定もほとんどの診療科で受けています。また、医師臨床研修指定病院としてNPO法人卒後臨床研修評価機構の認定病院であります（写真1：航空写真 写真2：正面 写真3：ヘリポート）。

当院がカバーする医療圏は、医療過疎地域を多数含む南北200km、東西150kmの広域な圏域であり、面積にするとほぼ四国4県分にも匹敵しますが、この広い圏域にあっても他の医療機関と良好な連携を保ち地方中核病院としての機能を果たしています。

さて、22診療科の内訳をお話しますと、一般消化器外科・泌尿器科（北大）以外のほとんどの

診療科が旭川医大の医局と関連し、大学時代の部活繋がりも多いことから、診療科の壁もなく和気あいあいの雰囲気にあふれています。「外科」に関する診療体制は、一般消化器外科が北大2外から3名、心臓血管外科が旭川医大1外から3名となっていますが、初期研修・専門医研修ともに、大学間の垣根なく両科を跨いで研修することが可能なカリキュラムとなっています。ちなみに外科・心臓血管外科合計の年間手術件数は約600件ほどであり、初期研修・外科専門医研修には十分な症例数があるものと考えています。現在は、初期研



写真1



写真2



写真3

修医を含め7名のAMUSE会員が当院に在籍しています(写真4:向かって左から柴垣、眞岸、清水、和泉、中津、鎌田、堀川)。



写真4

## 遠軽厚生病院

JA遠軽厚生病院 外科

副院長 稲葉 聡

遠軽(えんがる)厚生病院は、遠軽紋別地区約7万人の医療を担っています。旧第2外科の関連病院になってから実に22年が経ちました、感慨深いものがあります。全国学会などでは“とうかる”や“えんけい”と呼ばれることもありました。これを機会にAMUSEの皆さまには“えんがる厚生病院”を認識していただければと思います。

遠軽は名前のイメージもあってか、すごく遠い



印象を持つ方も多いかと思いますが意外と近く旭川からは約120kmです。JRや高速バスで2時間、高規格道路延伸で車では1時間40分程度の距離です。当院には、ほぼ毎日旭川医大からの出張医が診療応援に来ています。

高齢化・人口減少が進みJR石北線の存続も取りざたされるなか、手術件数もやや減少傾向にはありますが年間300例程度の手術を行っています。地域医療を守る立場からも、できるだけ広い範囲の疾患に対応するよう心がけています。消化器外科が中心となりますが、それ以外に乳腺、甲状腺、肺、下肢静脈瘤等の手術も行っています。

救急病院としての使命も大きく、年間約1000台の救急車を受け入れており様々な外傷にも対応しています。

また当院の特徴として、医師のほとんどが旭川医大卒業で各科の垣根が低く医師間の連携も円滑です。High Volume Centerというわけにはいきませんが、幅広い外科疾患の基礎を研修することができる環境にあり、初期臨床研修医や専門医を目指す若手外科医の希望やニーズに答えることができていると思っています。

実は、当院はAMUSEが結成される以前から旧第1外科との関りは深く良好な関係にありました。講師時代の東教授(私とは同期)と、これまた同期の赤坂講師(現製鉄記念室蘭病院)両先生の尽力により平成21年に当院で循環器外科外来を開設することができました。月2回の外来ですが、心臓血管外科分野で当院と旭川医大を繋ぐ大きな懸け橋となりました。微細な血管吻合が急遽必要になったときに、東教授が旭川からタクシーで駆けつけてくれたことも思い出されます。また現在乳腺外科で活躍されている石橋先生が、初めて旧第1外科からの派遣の形で平成23年に当科で勤務されました。広く外科の基礎を学びたいという希望を叶えた結果でした。これらの交流により当院の診療の幅が広がり地域医療に貢献できたことを実感していましたので、AMUSEが結成されたことが今後の道東・道北の外科医療の充実に大いに寄与するであろうと確信しています。

現在当科では、3年目の斎藤義也君と岩田浩義君が切磋琢磨しながら日々奮闘中です。今後もAMUSEの一員として、研修医の教育や若手外科医の指導の一端を真摯に担っていきたくと思っています。

## AMUSE 初期・後期研修医一覧

2018年2月現在、5年目以下のAMUSE会員27名が道内各所で外科専門医取得を目指し研鑽を積んでいます。AMUSE会員の皆様におきましては若手外科医の指導・サポートで大変お世話になっています。今後も御指導・御支援の程よろしくお願い申し上げます。現在AMUSEで研修中の初期・後期研修医は以下となっています。

年次	氏名	所属
1年目	潮田 亮平	北見赤十字病院
	大久保 諒	札幌東徳洲会病院
	高橋 一輝	市立旭川病院
	堀川 大介	名寄市立総合病院
	柴垣 圭佑	名寄市立総合病院
	宮本 寛之	市立旭川病院
2年目	鎌田 啓輔	名寄市立総合病院
	竹吉 大輔	八雲総合病院
	大平成 真	旭川医科大学
	山本 寛大	旭川医科大学
	安達 雄輝	旭川厚生病院
	森山 寛也	旭川医科大学
3年目	竜川 貴光	旭川医科大学
	武田 智宏	札幌徳洲会病院
	齋藤 善也	遠軽厚生病院
	中津 知己	名寄市立総合病院
	安田 俊輔	国立病院機構帯広病院 呼吸器外科
	岩田 浩義	遠軽厚生病院
	阿部 昌宏	旭川医科大学
	小林 大太	旭川医科大学
	國岡 信吾	製鉄記念室蘭病院
4年目	栗山 直也	釧路孝仁会記念病院
	菊池 悠太	製鉄記念室蘭病院
	高橋 奈七	旭川医科大学
	合地 美香子	旭川医科大学
5年目	筒井 真博	国立病院機構帯広病院
	西越 崇博	旭川厚生病院

## 自己紹介

### 外科医として

名寄市立総合病院（1年目）

#### 堀川大介

名寄市立総合病院で初期研修医1年目として研修しております堀川大介と申します。出身は十勝の帯広市で出身高校は帯広柏葉です。先輩にはTBSアナウンサーの安住紳一郎さんやDREAMS COME TRUEの吉田美和さん、また同じく歌手の中島みゆきさんなどがおります。その後、旭川医大に進学しバスケットボール部に所属しておりました。現役時代は辛いと思うこともありました。多くの先輩方、同期そして後輩に恵まれ、今こうして振り返ってみるとかけがえのない財産であったと感じます。

外科医を志したのは小学校4年生の時に外傷性消化管穿孔のため手術を受け、その後腸閉塞になり2度目の手術を受けたことがきっかけです。一流の外科医になることはもちろんですが、患者さんやその御家族にも優しい医師でありたいと思っておりますので、その気持ちを忘れずに医道を邁進していきたいと考えております。

最後になりましたが、今年の7月から旭川医科大学での研修となる予定です。AMUSEの皆様はもちろん病院関係者の皆様、わからないことばかりでご迷惑をお掛けすることも多いと思いますが、御指導御鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。



### 初めまして

北見赤十字病院（1年目）

#### 潮田亮平

初めまして、北見赤十字病院で初期研修をしております潮田亮平です。私は学生の頃は循環器内科を志望していました。しかし、学生実習の折に紙谷教授をはじめ夜も寝ないで患者にひたすら真摯に向き合っている先生方の姿と飲み会での姿のギャップに心惹かれ心臓外科の道に進みたいと思い、AMUSEに入会させていただきました。

北見赤十字病院では1年間という短い時間でしたが本当に多くのことを学ばせていただきました。研修医が少ないこともあり執刀医や主治医を各科であてていただき、自分の勉強不足がそのまま患者さんの不利益になるのだということを実感しました。オーベンの先生からは「今から死ぬ気で勉強するか医者をやめるか選べ。」と怒られ、なんとか医者を続けるために日々邁進しております。春からは大学に戻り外科を中心に残りの1年間を研修させていただきます。外科医として自分がやっていけるのか不安でいっぱいですが、研修はもちろん今年は学会発表もできるような頑張りしたいと思いますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



海上保安官のコスプレで敬礼している潮田

## よろしくお願ひします

旭川医科大学（2年目）

### 山本寛大

お世話になっております。消化器外科に所属しております山本寛大です。お会いしたことある方もいらっしゃると思いますが、多くは知らない方かと存じますので、自己紹介させていただきます。

私は旭川に生まれ旭川で育った生粋の道産子で、2010年に旭川北高校を卒業いたしました。同年旭川医大に入学し、2016年に卒業（38期にあたります）、そのまま医大病院で2年間初期研修をしております。1年目は様々な科をローテーションし、2年目からは主に消化器外科で研修しております。年末の3か月間は北見小林病院でお世話になり、現在は大学の肝胆膵グループでご指導いただいております。

来年度からは遠軽厚生病院で諸先輩方と一緒に勤務させていただきます。まだまだ若輩であり、ご迷惑をおかけすることも多くなりますが、少しでも早く一人前の外科医になれるよう努めてまいります。

四半世紀を過ごした旭川の地を離れることや、私事ですが年度末に結婚することもあり、新生活への期待や不安で入り乱れておりますが、日々精進して参りますので、学会や会合でお会いした際にはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



## 自己紹介

旭川厚生病院（2年目）

### 安達雄輝

いつもお世話になっております。旭川厚生病院の研修医2年目、安達 雄輝と申します。早いもので、2年間の初期研修研修も残りあと僅かとなりました。多くの方に支えていただき、無事修了できる見込みです。研修開始前には、2年あれば外科の基礎は身につけて、自信を持って後期研修に臨めるようになっていたろう。そう考えていました。しかし、経験すればするほど、勉強すればするほど、できないことやわからないことが新たに発見され、いつになったら一人前になれるのか、今は不安でいっぱいです。常々、先輩医師の皆さまの偉大さを感じております。無知の知を知るとはまさにこのことであるなあと思いながら、昨日の自分より何か一つでも賢くなれるよう日々研鑽を積んでおります。また、学生の頃から海外留学にも興味があり、その準備も少しずつ進めています。学会や講演会で海外の医師がいらっしゃる際に、欠かさず声をかけてくださる古川教授をはじめ、諸先生方には、心から感謝しております。

AMUSEにとって魅力ある人材となれるよう努力して参ります。何卒宜しくお願ひ致します。



## よろしくお願ひします

旭川医科大学（2年目）

### 大平成真

日頃から大変お世話になっております。もうすぐ初期研修も終わり、3年目に突入します大平成真と申します。血管外科に入局を決め、2年間旭川医大で初期研修をしました。1年目の内科研修や救急科研修を終えた後、今年には心臓外科からスタートして呼吸器乳腺外科、小児外科、そして血管外科と第1外科ローテーションをさせていただきました。大学で研修できることを生かして、教授や諸先生方から知識や手技を学び、学会発表や論文作成などにも着手することができ、充実した研修を行うことができました。1年目でも血管外科を2ヶ月研修しましたが、その時とはまた違う緊張感というか責任感を2年目では感じました。特に外科ローテ最初の心臓外科では、多々ご迷惑をおかけし、またいくつか伝説級の出来事もありましたが、多くを経験させていただきました。胸骨正中切開、グラフト採取など、初めて経験したときの気持ちを忘れずに、これからのステップアップに励んでいきたいと思ひます。血管外科では基本的なことから治療における考え方など、これからの自分の医療の基盤となる知識を学び、多くを経験させていただきました。知識も技術も、まだまだ足りないことが多いですが、これからも日々研鑽を積んで、外科医の道を進んでいきたいと思ひます。未経験の消化器外科を回る日も楽しみにしております。皆様、これからもどうぞよろしくお願ひいたします。



地域研修の芽室にて  
検診に胡散臭さを感じ取っている少年と研修医大平

## AMUSE入局 1年目を終えて

旭川医科大学心臓大血管外科

### 小林大太

初めまして、AMUSE入局1年目の小林大太です。私は神奈川県に生まれ、高校までを神奈川で過ごし、大学から旭川に来ました。旭川医科大学を卒業後は沖縄の南部徳洲会病院にて2年間研修し、今年度から紙谷先生の元心臓外科医を目指し研鑽を積ませて頂いております。今年には心臓外科・血管外科・呼吸器外科・小児外科をローテーションし、数多くの手術及び術後管理を勉強させて頂きました。どのグループを回ってもよくしていただき、大変有意義な研修を送ることが出来ました。写真は初執刀（収縮性心膜炎）をさせて頂いた時のものですが、自分の術野目線のカメラが記録に残ることに緊張し、胸骨正中切開を行ったときには元気のなかった心臓が手術にて元気に動くようになった姿には感動を覚えました。これからも1つ1つの症例を大切に研鑽に励もうと思ひます。またプライベートでは紙谷教授の計らいにて家族と過ごす時間も設けて頂き家族一同感謝しております。日々成長する長男の姿に癒されています。4月からは釧路での新生活が始まりますが精いっぱい頑張ろうと思ひますのでこれからもどうぞよろしくお願ひ致します。



## ご指導お願いします

旭川医科大学（3年目）

### 阿部昌宏



呼吸器・乳腺外科の阿部昌宏と申します。初期臨床研修後に入局し、AMUSEの一員となってから早いもので1年がたちました。この1年は大学で研修し、色々と学ばせていただくことができました。

4月からは帯広で研修する予定です。外科医になって1年、自分の専門分野のことでさえ知識も浅く、まだまだ何もできませんが、精進いたします。ご指導のほどよろしく願いいたします。

最近旭川医大の外科に入局する人も増えてきているようですが、AMUSEの力で後輩外科医がもっと増えればいいなと思っております。学生が外科に入りたいと思うようなきっかけをAMUSEがくれたらうれしいです。ついでに呼吸器・乳腺外科グループにも後輩が入ってくれるとうれしいです。今年は大学を離れるので学生と関わることはなくなりますが、大学に戻ってきたら勧誘活動も頑張りたいです。今後ともよろしく願いいたします。

## 学生・初期研修医業績

AMUSEは学会発表などの活動を通して、初期研修医や学生の指導を行っています。AMUSEの活動費の一部は、このような活動の助成として使用されています。

初期研修医・学生の活動を御報告します。

### <呼吸器・乳腺分野>

①2017年9月16日 第1回北海道外科関連学会機構合同学術集会（札幌）  
氏家菜々美（医学部医学科 5年生）  
乳腺嚢胞内に発育したadenomyoepitheliomaの1例

②2017年9月16日 第1回北海道外科関連学会機構合同学術集会（札幌）  
伊藤 茜（医学部医学科 5年生）  
急性骨髄性白血病加療中に発症した肺ムコール症の手術例

### <消化器病態外科学分野>

①2017年4月29日 第117回 日本外科学会 総会（横浜）  
堀川 大介（旭川医科大学 卒後臨床研修センター）  
外科学に興味を持つ医学生が作った部活動Surgeons Handsの活動とその結果解析

②2017年7月1日 第111回 日本臨床外科学会北海道支部総会（札幌）  
森山 寛也（旭川医科大学 卒後臨床研修センター）  
血管外科と合同で切除し得た巨大後腹膜脂肪肉腫の1例

③2017年9月16日 第1回北海道外科関連学会機構合同学術集会（札幌）  
金澤 茜（医学部医学科 5年生）  
食道原発悪性黒色腫の1例

④2017年9月16日 第1回北海道外科関連学会機構合同学術集会（札幌）  
山本 寛大（旭川医科大学 卒後臨床研修センター）  
進行大腸癌術後、転移と鑑別が困難であった大網腫瘍の2例

⑤2017年9月16日 第1回北海道外科関連学会機構合同学術集会（札幌）  
窪田 武哲（旭川医科大学 卒後臨床研修センター）  
緊急手術を施行した胆嚢炎に伴う胆嚢動脈仮性瘤破裂の1例

⑥2017年11月23日 第79回 日本臨床外科学会総会（東京）  
山本 寛大（旭川医科大学 卒後臨床研修センター）  
急性胆嚢炎を合併した胆嚢異所性腺の1例

⑦2017年12月2日 第112回日本臨床外科学会北海道支部例会（札幌）  
窪田 武哲（旭川医科大学 卒後臨床研修センター）  
経胃EUS-FNAによるNTSが原因と考えられる膵癌胃壁再発の1切除例

### <血管外科分野>

#### 学会発表

①2017年5月26日 講演会:大塚製薬（旭川医大）  
大平 成真（旭川医科大学）  
超低左心機能患者に対するトルバプタンの周術期使用経験

②2017年6月24日 第117回日本循環器学会北海道地方会（北大学術交流会館）  
大平 成真（旭川医科大学）  
産褥性心筋症に対して体外式LVADを使用した一例

③2017年9月1日 日本麻酔科学会北海道東北支部第7回学術集会(秋田)  
柴垣 圭佑(名寄市立総合病院)  
術中に輸血関連急性肺障害を疑った1例

④2017年9月9日 第1回日本集中治療医学会北海道支部学術集会  
大久保 諒(札幌東徳洲会病院)  
劇症型心筋炎で経皮的心肺補助装置抜去のタイミングに苦慮した1例

⑤2017年9月16日 第37回日本血管外科学会北海道地方会(札幌市)  
鎌田 啓輔(名寄市立総合病院)  
人工血管破損によりグラフト狭窄をきたした1例

⑥2017年9月17日 HOPES(札幌芸文館)  
大平 成真(旭川医科大学)  
右小開胸アプローチによる僧帽弁形成術に合併した肋間肺ヘルニアの2例

⑦2017年11月18日 日本内科学会第21回北海道地方会(旭川)  
柴垣 圭佑(名寄市立総合病院)  
肝転移のminor rupture及び腫瘍内出血による急性腹症を契機に診断されたAFP産生胃癌の1例

⑧2017年11月25日 循環器学会北海道地方会  
高橋 一輝(市立旭川病院)  
CTとMRIが診断に有用であったALCAPA症候群の1例

⑨2017年11月25日 第79回日本臨床外科学会総会(東京都,千代田区)  
鎌田 啓輔(名寄市立総合病院)  
金属アレルギー患者に対するペースメーカー植え込術の1例

⑩2017年12月27日 SAM Meeting(旭川医大)  
大平 成真(旭川医科大学)  
A case of bilateral common and iliac artery aneurysms treated with Endovascular therapy

## 論 文

①日本臨床外科学会雑誌  
鎌田 啓輔(名寄市立総合病院)  
金属アレルギー患者にePTFEでペースメーカーを被覆した植込み術の1例 \*accept待ち

## Prize,賞

①院内でのCPC発表  
宮本 寛之(市立旭川病院)  
両弁置換術後経過中に合併症が多発した長期透析患者の一例

# 編 集 後 記

AMUSE設立から約2年が経過しました。私自身出身大学(自治医科大学)も違いいわゆる関連病院暮らしが長かったこともあり、AMUSE内でも面識のない医師が多かったのですが、挨拶したり手術応援頂いたりする機会ができました。また外科専門医取得にあたりお互いの診療科や法人会員を回る若手医師も出てきています。この動きが加速することを願っています。幹事としてみてもまだまだ未熟な組織であることを痛感しますが、若手医師と同様、AMUSEも成長していければ、と思っております。

今回の紙面作成にあたり、AMUSEの趣旨をご理解頂いている法人・個人会員の皆様、AMUSEの実際の活動内容や学生や若手医師の活躍を伝えるよう紙面作成を行ったつもりです。是非とも御一読いただき皆様のご意見・ご批判を頂けると幸いです。

最後にAMUSE理事・幹事の皆様をはじめ、各部門の中堅の先生、各講座の秘書の皆様、そしてAMUSE秘書の米谷さんに多大なる協力をいただきました。また、法人会員紹介として名寄市立病院和泉院長、遠軽厚生病院稲葉副院長にも多忙なか寄稿をお願いしました。皆様のご協力のおかげをもちまして無事、AMUSE会報第2号を無事発刊することができました。皆様に心からの感謝を申し上げます。(S・T)